

派遣先所属 岩手県教育委員会生涯学習文化課 氏名 浅野 晴樹
派遣期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

(1) 派遣業務の内容、現況

東日本大震災から3年半が過ぎようとしています。岩手県は沿岸全域にわたり、津波による甚大な被害を受けました。いまだ、あちこちにその爪痕が残っております。

そのような中、私は4月以降、主に沿岸市町村の埋蔵文化財調査の支援に携わってまいりました。大槌町、山田町、そして現在は陸前高田市への支援に従事しております。

大槌町は外海に面した平坦な地形で、その平坦地に作られた家屋や役場は、津波と火災でほとんど壊滅しました。大槌町は室町時代以来、港町として栄えたところで、たび重なる津波と火災を経験しながら現在に至るまで同じ場所に港を維持してきました。その理由としては、外海に面して海上交通の要衝であること、豊富な湧水地帯であることなどの地の利があげられます。この一帯は海拔5メートルほどの嵩上げを行い、再び町の中核として再生させることを目指しています。発掘調査は、町方遺跡と称される室町時代以来、大槌の中核を担った場所について実施したものです。現地表から1メートルほど掘り下げると、津波、火災、津波と幾層にもその事実を認めることができました。津波の恐怖とともに、住みやすい環境を捨てがたい、この地域の方々の気持ちが伝わってくる発掘調査でした。

7月からは山田町の支援に入りました。大槌町の北隣りの町です。市街地の前は内海が広がっており、その内海には「牡蠣」「ホタテ」などの養殖筏がみられ、一見穏やかな津波被害前の生活に戻りつつあるように見えますが、ふり返り陸地の市街地に目を移すと、被害は甚大で、まだまだ復興の道のりは厳しいものを感じました。ここでは、主に高台移転地や堤防建設予定地の埋蔵文化財の確認調査を行いました。堤防建設予定の確認調査では遠浅の海岸を埋め立てて集落が作られていることがわかりま



山田町山田湾

した。過去に幾度の津波被害を受けながらも、漁業に従事される方達にとって、漁場と直結する海岸沿いに住むことが生活するうえで、いかに重要な要素であるかひしひしと感じました。

9月中旬からは、「奇跡の一本松」のある陸前高田市に支援に入っております。岩手県内では、比較的復興事業が進んでいる印象を受ける自治体で、陸前高田市の中心地であった高田町一帯は、山から何本ものベルトコンベヤーが延びて、嵩上げ事業が

盛んに行われています。

私が調査に入りましたのは、陸前高田市米崎町というところで、広田湾に面した丘の上です。海岸沿いにわずかな平坦地があり、その先は急な坂となり、海に近いわりに標高が高く日当たりもよいため高台移転の適地となっているところです。このような地形であることから震災以前は、この地域は漁業とともに、農業も盛んなところで



陸前高田市の復興の状況

特にリンゴ栽培は古くから行われています。調査個所の周辺にもリンゴ畑が広がっています。

発掘調査は、「堂の前貝塚」という縄文時代の遺跡について実施しております。岩手県からの支援者は、北海道、山梨県、鹿児島県、それと私、さらに陸前高田市に福岡市から派遣されている5名で行っています。まさに列島北から南までの混成部隊で、実際の調査では、侃々諤々と意見を交わしながらの毎日です。

す。

(2) 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

過去2年間は、埼玉県文化財担当職員は宮城県に2名派遣されてきました。今回、初めて岩手県に私が派遣されました。岩手県、宮城県、さらには福島県とそれぞれ被害状況の違い、さらには福島に至っては原発問題もあり、復興の進捗状況に違いがあることは周知のことです。派遣職員の集まりなどでも埋蔵文化財への対応状況について自治体間での相違が話題となります。それは、今述べたような被害状況の違いが大きな要因とは思いますが、自治体間の体制のあり方にもあるような印象を受けました。それは悪い意味でなく、それぞれの自治体の文化財行政の歴史や運営のあり方など様々な要素があつてのことと考えられ、埼玉の文化財行政をふり返るきっかけにもなりました。

震災以来の年月は多くの方々の生活にも様々な変化をもたらしました。故郷を去り、内陸などに転居される方も随分増加しているようで、被災地の震災後の人口減少には著しいものがあります。それは、日本創生会議の予想をはるかにしのぐ、加速度的な人口減少を感じさせるものです。

陸前高田市の発掘調査の作業員の方から「嵩上げ工事がいつ終了するかわからないが、終わったときにこの町が元のように戻ると思いませんか」と尋ねられました。辛い質問です。その方は私の意見を聞く前に「きっと元のような町には戻らないかも」と辛い表情をされました。表現がよくないかもしれませんが、今は復興の喧騒で市内全体が一見賑やかな感じがいたします。復興が進み、住民の方々の方々のみの日常生活が始ま

った時、震災以前同様な地域社会の復活があることを心から祈念いたします。